

恵みと真理のニュース



2016 年 7 月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

私が変ってイエス様を信じ御言葉の恵を愛して

生きるようになったのは神様の恵みであり、神様がなされた奇跡です

今年の7月になると恵と真理教会に来てイエス様を受け入れ信仰生活を始めて4年目になる月です。私は1949年生まれで今年68歳です2年にすぎたら70歳です。職場を退職してキョンギドのイアン市から息子の家族が住むデクに引越しを来たのも4年になりました。

年を取って老人になる姿を見ながら以前の歳月を振り返ってみて残った人生は意味ある人生を送りたいと思いました。そして、後世に深く関心をもって教会に来るようになりました。私がイエス様を信じ魂の救いを得て幸せな老年を送るまでやさしい嫁が真の信仰で主に祈りました。そしたら、主は嫁の祈りに答えてくださって今まで閉まっていた心が開かれ耳を傾いて主を受け入れるように摂理してくださったのを考えて神様の恵みに感謝を捧げます。

私の家庭は仏教でした。昔教会があまりなかった田舎で自然に仏教の思想と慣習を接するしかなかったです。特に故郷であるコンジュはお寺がケリョン山だったので多かったです。家の代々にお寺に近く住みながら家庭の問題があったら寺に行ってお参りをしました。特に祖父は一人息子で子孫が繁栄するのが最優先の課題だったので祖母は遠く距離が離れたにも関わらず100日間毎日お参りをしました。100日のお参りをした後10人の兄弟を産みましたが、二番目の父は恩返しとしてお寺で青年になる前まで暮らしました。父は青年になる頃お寺の生活に厭きて逃げました。そして日本に行つて靴を作る技術を習って仕事をする中で日本人と結婚しました。国が解放され親は日本から韓国ブサンで定着し私が生まれました。父は異郷で住む中でも祖父の命日には必ず故郷に行つて子供の頃生活していた寺へ挨拶しに行きました。私はそんな姿を子供の頃から毎年見て育ちました。家庭は仏教と深い縁を結んでいました。父が病気で長い間闘病した後亡くなった後にも私は熱心がある仏教信者ではなかったですが教会は考えもしなかったです。このような環境の家庭が息子の結婚と共に驚くような変化が起きるようになりました。嫁は恵と真理教会に通い熱心にイエス様を信じ支える信者でした。私は無神論者だったので特に宗教に対する好き嫌いがなかったから息子が教会に通う人と結婚するとしても人だけ良ければ大丈夫だという立場でした。



【信仰コラム】

聖書の教え通り苦難に対応しなさい

”...「あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救を見なさい。...」（出エジプト記14：10～14）

‘苦難’とは体や心が苦しいことを意味します。従って、悲しみ、寂しさ、恐れ、心配、苦痛、喪失、恥じ、憂鬱のような多用な状態を包括します。苦難が免除された人はないという事実と苦難はそれを理解して対応する態度によって及ぶ影響と結果が異なるという事実を考えると苦難の問題を良く取り扱うことが人生に与えられた重要な課題だと言えるでしょう。従って、聖書は苦難の問題を広くて深く扱っています。

第一、人間の生活に苦難が必然的なことになって理由を調べてみましょう。

人類の祖先であるアダムが神様の命令に逆らったのでエデンから締め出され、地は呪いを受けて地がアダムにいばらとあざみを生じました。刺は傷と苦痛を与える苦難を象徴します。この地のどこであれ人生に苦難があることはアダムの犯罪によったのです。それゆえ、この世のどこに行っても私達が願わない苦難に直面するようになります。人生と苦難は常に共にします。

第二、苦難に対する対応策を調べてみましょう。

それで娘が同じ学院で英語講師として仕事をしている嫁を息子の配偶者で勧められた時に、私は人の出来上が良くて息子も好きだと言われたので結婚を許可しました。仏教の方が近かった家庭がキリスト教を信じる家庭とあいやけになりました。

その後、教会で長路と勸士の職分を努めるあいやけも私達の夫婦に何回伝道して教会に来るように勧めました。しかし、私は仏教の雰囲気と育ってられたものもあるし、親の祭祀のため断りました。引退してからはデクに引越しして生きる考えをして息子と近くに住むようになると教会に行くのではないのかと思いました。そして私達の夫婦が初めからキリスト教の教理と基礎的な聖書の内容をある程度知ってから教会にいたのではありません。キリスト教に対する関心と知識がなくて“神様を信じると天国に行くという内容くらいしか知らなかったです。

肉体が亡くなって魂が天国にいと肉体がないからコミュニケーションができなくておいしいものも食べられなくて、生きる人の目に見えなくなつた天国にいと理解しました。そして私は親が早く亡くなったので生きている時に親孝行もしなかったことが親に申し訳ない心で親の命日に心を尽くして祭祀をしていました。したがって、親孝行もしなくて確信がない天国に行くため、あえて教会に行く必要はないと思いました。

しかし、年がとって知り合いの人々が一人二人私を離れ死ぬと心がとても寂しくなり、人生について振り返ってみました。ある日、あまり残っていない人生が神様に委ねて生きるとやりがいがある意味ある人生で生きたい思いをしました。今まで親孝行のことで教会に行くのに一番ざまだった親の祭祀の問題も追悼礼拝を通して親孝行をするのを理解して教会に行くのを肯定的に考えました。

強く閉まっていた私の心が変わったのは今まで嫁が私達の夫婦が教会に通うように切なく祈ったのを神様が聞いてくださって私達の心が開かれたと思います。そして2012年7年、デグに引越ししてからすぐ嫁に導かれデグ聖殿で生まれ始めて礼拝に参席しました。これは私と家庭で起きた一番大きい奇跡であり驚くほどの変化です。私達の夫婦が初めて教会に行ったのはただ心の修養で教会に行きました。ところが、続けて教会に通いながら牧師の御言葉の聴き単純にキリスト教の本だと思っていた聖書を読み始めて驚くような真理を悟り

ました。それは救いの真理です。

私がイエスキリストを救い主として信じ罪が赦され罪人が義人になり、この世にも神様に祈って多様な恵を受けて死んだ後にも私の魂が天国で行って楽に過ごしてイエス様が再臨する時に死んだ体も復活して心霊な肉体を着て天国で永遠に生きるのも知るようになりました。

このような大きい恵を受けるのがこの世で生きる中でも大きく心配しなくていつも楽しい心で生きる力になるのを悟りました。そして聖書を読んで神様を賛美し、60年間自分の考えが強く自分ばかり考えた私が配慮して謙遜な心で変化するようになったのも神様の恵みだと思いました。

教会に通ったその日から今まで毎週発行される恵と真理のニュースを集めて当会長牧師の説教を再び読んで内容を要約整理し御言葉の意味を考えるのが私の重要な事です。主日に教会に行つて神様に礼拝を捧げるのが限りなく楽しいことになりました。そして、平日には恵と真理のニュースを読み聖書の御言葉を悟るのが幸せが充満な日々を送っています。これが私と家庭で起きた二番目の大きい奇跡です。

“人は誰でも幸せに長く生きるのを願っています。より良い人生を生きるため朝から夜まで疲れも忘れて仕事をします。他人に負けないように走ります。忙しく生きる人生の終わりは何ですか。人間の死ですべてが終わる存在ではありません。その後には神様が準備した新しい世界があります。

その世界を今日熱心に準備し期待する人が真で賢明で幸せな人です。イエスキリストを信じイエスキリストの中で生きる人が真の幸せな人です。このような事実を悟るように心霊な楽しみと平安を享受し希望の中で生きるようにしてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。

“だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。”（コリント信徒への手紙二5：17）

“わたしたちの主、救い主イエス・キリストの恵みと知識において、成長しなさい。このイエス・キリストに、今も、また永遠に栄光がありますように、アーメン。（ペテロ信徒への手紙に3：18）

エル子孫は海の中に開かれた道を無事に渡りました。しかし、追い付いてパロの軍隊が海の中に入ると神様が水が流れて彼らを覆い何一つも残らないようになさいました。

第三、苦難による有益について調べてみましょう。

苦難は神様がお呼びする音声を聞くようにしてくれて、世俗化することを防止して敬虔な生活をするようにして、傲慢な心を捨て謙遜な態度で生きるようにしてくれます。神様が苦難を受けた者に苦難を克服する適切な救を備えられるということを経験するようにし、苦難の中でも相変わらずに主を愛して頼る者には神様が万事を益となるようにしてくださるということを経験するようにします。また、神様に対する信頼と愛と忠誠の真実性を表す機会を提供します。ヨブは全てを失った惨憺な生活を神様に向いた信頼と愛と忠誠を表せる機会として扱いました。シャデラクとメシャクとアベデネゴは縛り付けられ溶鉱炉に投げ込まれる状況を神様に向いた信頼と愛と忠誠を表す機会に扱いました。預言者ハバククは何もろくにできない暗澹な状況を神様に向いた信頼と愛と忠誠を表せる機会に扱いました。聖徒の皆さんは、苦難を恐れずに聖書の教えに従い苦難を理解して対応してください。そうして苦難を通じて得られた有益について明かしてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

聖徒に適当な笑い



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

笑うことは人にある特性の中の一つです。笑うことは年に構わずに誰もできます。赤ん坊もにこりと笑うとかカラガラと声を出して笑います。歳月が肉体のすべての機能と感覚を弱くて鈍くならせますが脳神経に異常がない限り笑うのに差し支えを与えないです。笑いが精神と肉体に及ぶ肯定的な効果が非常に大きいという事実はよく知られています。怒ると心が硬直されて判断力が弱くなります。一方に笑いは心に余裕を与えて柔軟に行動することができます。聖書には神様の前で笑った人々に関するお話があります。そして笑いに関わる句節もあります。今日は聖徒に適当な笑いがどんな笑いかそして聖徒が笑いを失わないで生きて行くことができる理由が何やらかをよく見ます。

第一は、聖徒に適当ではない笑いとは聖徒に適当な笑いに対してよく見ます。

これに関するお話が創世記 17 章と 18 章にあります。17 章にはアブラハムが神様の前で適当ではない笑ったお話が記録されています。“アブラムの九十九歳の時、主はアブラムに現れて言われた、「わたしは全能の神である。あなたはわたしの前に歩み、全き者であれ。わたしはあなたと契約を結び、大いにあなたの子孫を増すであろう」。アブラムは、ひれ伏した。神はまた彼に言われた、わたしはあなたと契約を結ぶ。あなたは多くの国民の父となるであろう。あなたの名は、もはやアブラムとは言われず、あなたの名はアブラハムと呼ばれるであろう。わたしはあなたを多くの国民の父とするからである。”(創世記 17:1~5)。アブラハムはひれ伏して笑い、心の中で言った、「百歳の者にどうして子が生れよう。サラはまた九十歳にもなって、どうして産むことができるか」。としました。このようなアブラハムの笑いが適切ではないということを神様がまっすぐに指摘しておっしゃるのを “しかしわたしは来年の今ごろサラがあなたに産むイサクと、わたしの契約を立てるであろう。”(創世記 17:21) としました。創世記 18 章にはサラが神様の前で適当ではない笑ったお話が記録されています。神様が旅人の姿でマムレのくぬぎ近くでアブラハムに現われました。彼らはアブラハムが接待した食べ物を食べた後おっしゃるのを “彼らはアブラハムに言った、「あなたの妻サラはどこにおられますか」。彼は言った、「天幕の中です」。そのひとりが言った、「来年の春、わたしはかならずあなたの所に帰ってきましょう。その時、あなたの妻サラには男の子が生れているでしょう」。サラはうしろの方の天幕の入口で聞いていた。” したら、それでサラは心の中で笑って言った、「わたしは衰え、主人もまた老人であるのに、わたしに楽しみなどありえようか」。

主はアブラハムに言われた、「なぜサラは、わたしは老人であるのに、どうして子を産むことができようかと言って笑ったのか。主にとって不可能なことがありますか。来年の春、定めの際に、わたしはあなたの所に帰ってきます。そのときサラには男の子が生れているでしょう。」(創世記 18:13,14)。アブラハムやサラは彼ら体の具合にとらわれすぎた常識の範囲の中で神様のお話を理解しようと思ったから適当ではない笑ったのです。しかしアブラハムとサラは神様のお叱りを受けて彼らの笑いが神様のお話に適当ではないのが分かるようになりました。そして態度を完全に替えて神様のお話をそのまま信じました。新約聖書にアブラハムとサラの信仰に対してこんなに記録されています。“彼は望み得ないのに、なおも望みつつ信じた。そのために、「あなたの子孫はこうなるであろう」と言われているとおり、多くの国民の父となったのである。すなわち、およそ百歳となって、彼自身のからだが生んだ状態であり、また、サラの胎が不妊であるのを認めながらも、なお彼の信仰は弱らなかった。彼は、神の約束を不信仰のゆえに疑うようなことはせず、かえって信仰によって強められ、栄光を神に帰し、神はその約束されたことを、また成就することができると確信した。”(ローマ人への手紙 4:18~21)、“信仰によって、サラもまた、年老いていたが、種を宿す力を与えられた。約束をなさったかたは真実であると、信じていたからである。”(ヘブル人への手紙 11:11)。アブラハムとサラが神様のお話に適当な信仰を持つようになった結果が創世記に記録されています。“主は、さきに言われたようにサラを顧み、告げられたようにサラに行われた。サラはみごもり、神がアブラハムに告げられた時になって、年老いたアブラハムに男の子を産んだ。アブラハムは生れた子、サラが産んだ男の子の名をイサクと名づけた。”(創世記 21:1~3) としました。イサクという名前は “彼が笑った。” という意味です。神様が約束したお話を最後まで信じる聖徒は必ず笑うようになります。こんな笑いが聖徒に適当な笑いです。

二番目は、聖徒は誰も笑いを失わないで生きて行くことができます。その理由をよく見ます。

人々は誰も笑いながら生きるのがほしいもので世の中には悲しくて懸念されることがとても多くて笑ってしまった生きることができません。聖書にはイエス様や弟子が笑ったという記録がないです。イエスキリストが悲しむとか泣くのは記録されています。キリストが悲しんで泣くのは人生のためのあがないの意味を持っています。そうとしてイエスキリストがいつも悲しみと涙の中で過ごしたことではないです。イエス様はすべての苦痛を超越する喜びを持ったしこのような喜びを聖徒にもください。イエスキリストが親しくおっしゃるのを “わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。”(ヨハネによる福音書 15:11) としました。イエス様は福音を伝えました。福音と言うのは嬉しい消息という意味です。イエス様がくださった福音は罪によってそして生の虚無と無意味によって憂鬱な人生に真正な楽しみを得させてくれます。

楽しみは笑いと同義語と言えます。楽しみがあれば笑いがあるものと決まっています。声を出して笑わないと言っても楽しい心には笑いが内在しています。悲しみと苦難が多く世を渡っても聖徒が笑いを失わないで生きて行くことができる最大の理由は救いをもらったからです。聖徒の皆さんは救いに含まれている内容を思っ言う習慣を持ってください。義人、聖徒、王のような祭司長、神様の子、天国、復活、新しい天と新しい地、新しいエルサレム、神様の称賛と賞、冠これらの皆は救いの意味するものなどです。聖徒はイエスキリストにあってこのようなものが皆自分の所有になって経験する現実になったまたはなることを思いながら楽しがって笑いながら生きて行くことができます。こんな楽しみ素材を思いながら笑って楽しむことは敬虔に属した演習だと言えます。あなたはどの事で笑いが多くて楽しがるのかという質問を受ければこれから並べるものなどを教えてください。すべて言えない状況ならばその中に一つでも教えてください。第一、私は神様の前で罪人であったがこれからは義人になりました。これを思えば笑いとし楽しみがあふれるようになると言ってください。第二、私は以前に悪魔の支配の下にあったがこれからは本当に自由人になりました。これを思えば楽しさと笑いがあふれるようになると言ってください。第三、永生を得た事実を思えば楽しさと笑いがあふれます。と言ってください。第四、以前には悪魔の子という身分であったがこれからは神様の子になりました。これを思えば楽しさと笑いが出ると言ってください。五番目、天国で永遠に生きるのを思えば楽しさと笑いがあふれるようになります。と言ってください。六番目、聖徒は将来生命の復活をするようになります。その時私は神霊な身を着るようになるでしょう。私の低い身がイエスキリストの光栄な身の形体と同じになるでしょう。その時を思えば楽しさと笑いがあふれるようになると言ってください。七番目、私たちがすべてキリストの審判台に立つようになるでしょう。試験と患難と誘惑があっても相変わらずイエスキリストを愛しながら信仰を守った者にそして神様の仕事に力をつくした者に神様が称賛と賞と冠をくださるでしょう。私はその日を思って笑って楽しがると言ってください。今まで列挙した楽しさと笑いの素材は世の中が与えることができないし奪うことができません。これらはイエスキリストによるのです。神霊なのです。永遠なのです。これらの皆が神様が私たちのために大事を行った結果です。

聖徒の皆さんはイエスキリストにあって楽しむことと笑うことを明日に持ち越さないでください。神様が大事を行ってイエスキリストにあって私たちに与えた恵みに従って笑いながら暮して楽しく生きれば皆さん正しかったということを神様が証明してくさるでしょう。そして皆さんが天国へ行けば自分がまことに賢かったということが分かるようになるでしょう。聖徒は将来新しいエルサレム都で神様とともに暮しながら永遠に楽しがって笑うようになるでしょう。しかしこの世の中に住むうちにも皆さんは神様の約束したお話と啓示のお言葉に対する信仰によって楽しがって笑いながら生きて行くように願います。